

2016年度 東山梨教育協議会研究の概要

研究推進委員長 平山 直樹

I はじめに

東山梨教育協議会は、東山梨地域全体の教育振興を願って、1964年（昭和39年）に校長会・教頭会・教連の三者が、県教委、各地教委の協力により設立された。これまでの活動の中で、私たちは「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探究」を目標に、今日的な課題の解決に向けてとりくんできた。また、管理職・教諭・専門職員が協同して組織研究を進め、東山梨地域の学校教育の向上、教職員個人の質的な向上、教職員相互の強固なネットワークの構築を図り今に至っている。

一方で、子どもたちや学校教育を取りまく状況を見ると、多くの課題が山積している。

ゆとり教育路線を転換した新しい学習指導要領が完全実施となり、学校現場では、増加した授業時数や学習内容等への対応に追われている。子どもたちも、1日の学習時間の増加、学習内容の多さや難解さなどにより、ゆとり感をなくし、教職員の戸惑いと保護者の不安をも助長する結果となっている。授業の構造化の一つとして「見通し」と「振り返り」を意識した授業づくりを行っていく上でも、地域や目の前の子どもたちの実態に応じたゆとりある指導過程の確立が必要不可欠となってくる。

また、実施9年目となる全国学力学習状況調査は、悉皆になり、調査結果による序列化・競争の激化が危惧され続けていることは周知のとおりである。他にも、35人以下学級の見送り、高校授業料無償化への所得制限、道徳や英語の教科化など、今後の教育施策の方向性によっては、子どもたちの笑顔を奪いかねない状況が懸念される。加えて最近では子どもの貧困問題も深刻な状況として捉えられている。家庭の経済格差が子どもたちの学力格差につながっていることが様々な調査から明らかになり、教育費の負担軽減をさらに図っていくことが求められる。少人数指導の充実や教職員の定数改善等、取り巻く環境には課題が山積しているものの、私たちは家庭環境や住んでいる地域に左右されず、学校に通う子どもたちの学力が平等に保障されるよう研鑽を重ね、組織的な研究を積み重ねていくことが大切である。

もちろん、時代と共に教育活動も変化していくことが必要だが、ただ時代の変遷に流されるのではなく、我々は、教育の不易と流行をしっかりと捉えた教育研究を行っていかねばならない。子どもたちを中心に据え、学校・家庭・地域に根ざした「心豊かなふれあいのある教育」を、東山梨の教職員が一丸となってめざしていきたい。

II 研究の推進について

1 研究の目標

「人間性豊かな子どもの育成とその学習を保障する教育活動の探究」

2 研究推進の基本的方針

- (1) 1964年発足より半世紀以上が経過した歴史的な重みや意義を重視し、東山梨の抱える今日的な教育課題解決のための研究を推進する。
- (2) 教育課程（カリキュラム）の自主創造的な編成にとりくむ。
- (3) 各学校の校内研究と教協研究との有機的結び付きとその充実を図る。
- (4) 保護者・地域住民との連携を強化する。
- (5) 組織研究の意義を理解し充実発展させるために、積極的な参加意識の高揚と組織的参加体制の確立を図る。

(6) 平和・人権・環境教育を積極的に推進し、生命の尊さや平和の大切さの意識高揚を図る。

3 研究の組織づくり

研究の基底は校内研究にあるとの認識に立ち、課題の本質に迫り、解決の方法・内容を考えたり、専門的力量を高める教育研究部会と、同じ地域に勤めるものが課題を共有し、連携をはかりながらその解決策を探るブロック交流研究会、さらに特別委員会を設け教協研究を推進した。以下、具体的に掲げる。

(1) 教育研究部会

共通テーマ：「人間性豊かな子どもの育成と教科教育課程の自主創造的な編成をめざし、教育の本質を実践的に追究する。」

	部 会 名	部 長	学校名	テーマ	
1	国語科教育	小学校	望月 清美	日下部小	思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導 ～言語活動の充実を通して～
		中学校	横森 梨歌	塩山北中	思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導 ～言語活動の充実を通して～
2	外国語教育	水上かおり	塩山中	意欲的に英語学習にとりくむ児童生徒の育成 ～楽しい授業・わかる授業を通して～	
3	社会科教育	小学校	那須 栄樹	塩山南小	言語活動をとおして科学的社会認識を育てる授業研究
		中学校	武藤 英紀	松里中	科学的社会認識を育てる授業研究 ～身近な資料を用いた授業研究～
4	算数・ 数学科教育	算 数	奥山 美恵	塩山南小	楽しく学び、高め合う算数学習をめざして
		数 学	菊島 昭佳	山梨南中	わかる授業の工夫と授業実践 ～基礎学力の定着と考える力の育成～
5	理科教育	小学校	山宮 将仁	岩手小	わかる理科授業の創造 ～楽しく学び 自然を豊かにとらえる理科授業をどう進めるか～
		中学校	志村 美佐	塩山中	わかる理科授業の創造 ～考える力を高める指導方法の工夫～
6	音楽科教育	平山 昌実	松里中	わたしの音楽 みんなで音楽 ～音楽を形づくっている要素を感受し自ら広げる音楽の世界～	
7	美術・図工科教育	小林 紀子	山梨南中	一人ひとりの力を引き出す題材と授業をどうつくっていくか	
8	技術科教育	碓井 篤	松里中	未来社会を展望し、生活を創る力を育てる技術科教育 ～生物育成に関する題材の工夫～	
9	家庭科教育	石田 周子	大和中	未来社会・生活を創る力を育てる技術・家庭科教育 ～ハンバーグにおける副教材の役割を考えよう～	
10	保健体育科教育 (小学校)	徳良 賢治	祝小	教材の本質をふまえた体育指導のあり方 ～器械・器具を使つての運動(遊び)、器械運動を通して～	
11	保健体育科教育 (中学校)	飯島 春奈	勝沼中	体育分野における授業の効果的な指導法 ～アクティブラーニングを活用して～	
12	保健教育	佐々木亜枝	塩山北中	児童・生徒が意欲的にとりくめる健康教育をめざして ～食物アレルギーの対応をとおして～	
13	生活科教育	丸山 英子	山梨小	子どもが生き生きと学ぶ生活科 ～地域とのかかわりを生かした活動を通して～	

14	自治的諸活動と生活指導	岩下 和子	松里小	一人ひとりの自立をめざした学級づくり
15	特別支援教育	那口真知子	塩山南小	自立をふまえて（どの子ども共に生き、共に育つ） 一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方
16	福祉教育	高石 圭子	祝小	学校教育における福祉教育のあり方
17	食教育	関 初実	塩山中	食生活を考える ～子どもたちのより良い食習慣づくり～
18	平和・人権教育と国際連帯	田邊 博幸	大和小	平和・人権教育と国際連帯の広がりをめざして
19	環境教育	渡邊 光章	日下部小	「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方 ～身近な環境や自然に対して主体的にかかわる子どもの育成～
20	情報化社会と教育・文化活動	荒井 祐貴	大藤小	情報活用能力を高める研究
21	進路教育	小林 淳子	祝小	一人ひとりにあった、生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか ～小・中における授業実践を通して～
22	保護者・地域住民との提携	立川 慶樹	山梨南中	開かれた学校づくりをめざして
23	教育条件整備	川野比呂子	祝小	豊かな教育を子どもたちに
24	カリキュラムづくりと総合学習	石井 美保	山梨北中	豊かで創造的なゆとりある教育課程の編集と実践
25	教育評価	三枝 一哉	日川小	「生きる力」をはぐくむ評価のあり方

(2) ブロック交流研究部会

共通テーマ；「地域が抱える教育課題を共有し、解決に向けた交流を行い、同一地域の小中連携や小中の系統的な教育のあり方を追究する。」

ブロック名	ブロック長	ブロックテーマ
山梨 支 会	山梨南 ブロック 松岡めぐみ (山梨小)	○情報交換及び地域の学習を通して、小中4校の望ましい連携のあり方を探る。
	山梨北 ブロック 雨宮 久 (岩手小)	○小中の連携を深め、山梨北ブロックの児童・生徒の指導に生かす。
	笛川 ブロック 藤波 貴 (笛川小)	○小学校・中学校連携を深めるとともに、地域の様子や子どもたちの実態を知り、指導に生かしていこう。
甲 州 支 会	塩山 ブロック 小椋 規雄 (塩山南小)	○小学校・中学校の連携を強化するため、地域が抱える教育課題を共有し、その解決に向けた交流を行う。
	塩山北 ブロック 川野 和昭 (大藤小)	○小中の連携を図り、塩山北中学校区の子どもたちを育てていこう。
	松里 ブロック 武藤 英紀 (松里中)	○同じ地域に学ぶ子どもたちの教育のために、小・中・地域の交流と連携を深めよう。
	勝沼 ブロック 金井 京子 (勝沼小)	○甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携を図りながら、同じ地域に生活する児童・生徒に対する系統的な教育の在り方を考える。
	大和 ブロック 新海小緒里 (大和小)	○小学校・中学校の連携を深め、児童生徒の教育課題についてともに考えよう。

(3) 特別委員会

ア 教育環境研究特別委員会（委員長 河野 泰 委員…校長会・教頭会・教連・事務職）

イ 児童生徒連絡協議会(会長 松里中学校生徒会会長 小細澤 桃子 顧問教員 古屋友香)

4 部会運営

本年度は、教育研究部会 25 部会、ブロック交流研究会 8 部会の成立をみた。教育研究部会は年間 10 回、ブロック交流研究会は年間 3 回設定し研究活動を行った。年間計画等、しっかりと見通しの上にならざる研究活動を更に推進していくことが重要である。

5 研究日と研究集会

毎週水曜日を研究日とし、地区教協研究日以外は校内研究にあてる。厳に校内行事等を入れずに研究時間を確保するようにしたい。春季・秋季・冬季教育研究会は 29 校の教職員が一堂に会し開催された。

6 研究推進地区

山梨支会を研究推進地区とし、山梨南中学校を会場に各種教研活動が行われた。

7 教育講演会

8月5日(金) 笛吹市一宮町 いちのみや桃の里ふれあい文化館

講師：夜回り先生 水谷 修 氏

演題：「今、子どもたちは」～私たちにできること、しなければならないこと～

III 今後の課題

学習指導要領への対応と同時に、特別支援、食教育、キャリア教育、外国語教育など、時代のニーズや要請にあった教育活動を進めていく必要に迫られている。このような状況にあつて、私たちは幅広い視野を持ち互いの力量を高めるべく、研究、実践をしてきた。

教育問題が多岐にわたる今日、文部科学省からの指導内容をそのまま踏襲するようなトップダウンの教育実践ではなく、目の前の子どもたちの実態を的確に捉えた上で、本当に必要とされる教育とは何かをもう一度見つめ直す必要がある。東山教育の長い歴史の中で、先輩方が積み上げてくださった私たちの組織研究に誇りを持ち、その意義を会員各自が自覚する中で、東山教育がさらに充実・発展するよう努めていきたい。

〈東山梨教育協議会役員〉

役職名	氏 名
会 長	萩原 徹(日川小)
副会長	高添 勉(東雲小) 小椋規雄(塩山南小)
事務局	平山直樹(勝沼中) [研究推進委員長・事務局長] 小串吾郎(松里中・教育会館) [事務局次長]
委 員	萩原 徹 (日川小) 鈴木 茂 (日下部小) 廣瀬芳樹 (山梨小)
	藤木成弘 (大和中) 中村達也 (松里小)
	高添 勉 (東雲小) 町田信次 (神金小) 小川正仁 (日下部小)
	加山大洋 (塩山中) 雨宮義仁 (山梨小)
	小椋規雄 (塩山南小) 岩下 城 (山梨小) 平山直樹 (勝沼中)
	日野原和貴 (八幡小) 小串吾郎 (松里中・教育会館)
会 計	日野原和貴 (八幡小)
会計監査	岡 利光 (大和小) 鶴田一路 (松里中) 小宮山公仁(塩山北小)